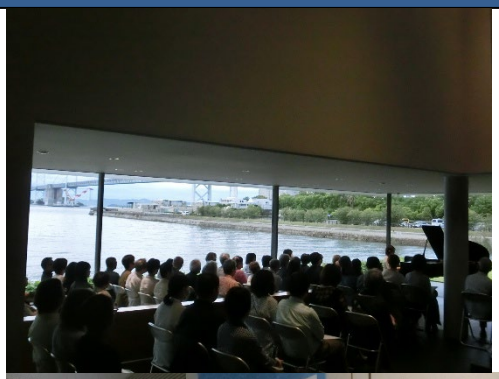
船の科学館
海の学び
ミュージアム
サポート

開催館名　香川県立東山魁夷せとうち美術館
企画展名　平山郁夫ーせとうちの風景を描く

開催期間：2026年4月25日（土）～2026年6月14日（日）









【企画展の内容・目的】

■シルクロードやアジア・中東の風景を数多く描いたことで知られる日本画家で、広島県瀬戸田町（現・尾道市）生口島に生まれ育った平山郁夫（1930～2009）の、瀬戸内を題材に描かれた風景画を紹介した。

具体的には、しまなみ海道の島と橋を描いた風景画「しまなみ海道五十三次」シリーズ、瀬戸大橋や小豆島などの香川の風景画、嚴島神社の大鳥居などの宮島の風景画など、28件30点を展示した。以上をとおして、瀬戸内で育った画家の表現で生み出された、瀬戸内の多彩な景観や海の風景画を通して、海と共存してきた瀬戸内の風土と文化、瀬戸内海にかかる架橋の歴史など、海と人とが関わる歴史的な営みを学ぶ効果を見込んだ。

■関連事業として、画家の実弟で平山郁夫美術館館長の平山助成氏による「スペシャルトーク」、瀬戸内海歴史民俗資料館前館長の田井静明氏による「瀬戸内の暮らしを知るトーク」、「学芸員によるミュージアム・トーク」、「子どもの鑑賞会」を開催した。瀬戸内の島に生まれ育った画家の思いや出品作品についての解説を行うことで、作品鑑賞体験を助け、海の重要性を伝える効果を見込んだ。

加えて、出品作品のひとつで、瀬戸大橋と海が描かれた《瀬戸内海大橋》（1995年制作）の作品イメージを彷彿とさせる、館内から瀬戸内海を臨む場所で、三豊市出身で令和7年度香川県文化芸術新人賞受賞ピアニストの稲沢朋華氏を招いた「夕焼けコンサート」を開催した。クラシック音楽鑑賞のなかで、瀬戸大橋と海が見える当館ならではの環境で、海辺の風景をより印象深く心に留めていただくことを期待した。

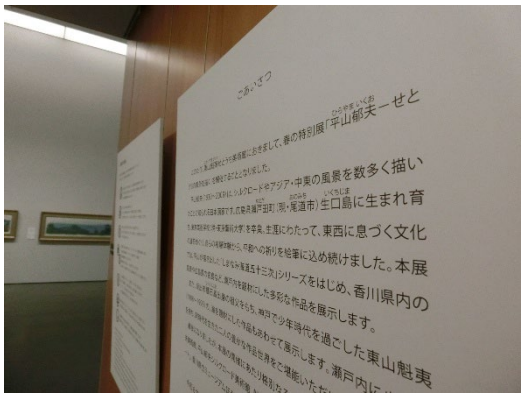
１．企画展示の内容

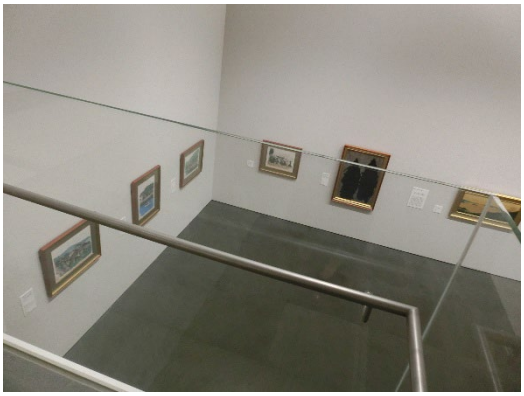
■開催期間：2026 年4月 25 日（土）～2026 年6月 14 日（日）

■開催場所：香川県立東山魁夷せとうち美術館　展示室

■入場者数：7,641 人









合計５章からなる会場構成で、瀬戸内で生まれ育ち、美術界に足跡を残した日本画家平山郁夫氏とその絵画作品 28 件 30 点を紹介。第１章「ふるさと瀬戸田にて」は、５件５点を展示。画家の故郷の港、港の漁船、向上寺三重塔、生口神社（祇園社）を描いた島内の風景画から、島の豊かさと美しさとともに、海辺の生活、文化、歴史への学びがある。第２章「輝く瀬戸内海」は、３件３点を展示。画家が青春時代を過ごした広島県・忠海の街と瀬戸内海を描いた風景画、本州と四国を結ぶ代表的な橋である「因島大橋」や「多々羅大橋」を題材にした風景画から、瀬戸内の自然の美しさとともに、瀬戸内海が交通の大幹線であることについての学びがある。第３章「しまなみ海道五十三次を行く」は、７件９点を展示。尾道、因島、大三島、伯方島、大島、今治城といった、本州から四国を結ぶ「しまなみ海道」の風景画や木造漁船スケッチから、瀬戸内の自然の豊かさとともに、寺社や海辺に建つ大橋などの建造物、海に向き合う人間の暮らしについての学びがある。第４章「讃岐路をたどる」は、９件９点を展示。画家が香川の地を取材して描いた、県内の島々、瀬戸大橋、遍路道、札所、城の風景画から、瀬戸内の文化と歴史を繋いできた海の姿についての学びがある。第５章「宮島をたずねる」は、４件４点を展示。潮の満ち干きで海と陸の両方に建つともいえる建築を有する宮島の、大鳥居や厳島神社といった、海の特徴と信仰の歴史が重なる場所を題材にした海の風景画から、美術の展覧会ならではの視点で海と人とが関わる歴史的な営みについての学びがある。

【来館者の声】

◯瀬戸内海の島々と海の風景、本州と四国を結ぶ橋の姿が美しい絵を通して身近に感じることができ、この風景が美しくずっと続いてほしいと思いました。

◯瀬戸内の海がきれいで保護が大切だと思いました。今後もこの風景を守りたいと思いました。

◯海に囲まれた日本にとって、海の景色、資源、生活の大切さを改めて考えました。

◯海を大切にしなくては、と感じました。

◯海の深さや広さ、重みを感じました。

◯海には、いろんな表情があるんだなと感じました。

◯瀬戸内の波の動きを絵から感じとれて、とても心豊かになりました。

◯海についての絵をたくさんみられて、よかったです。

◯きれいな海をいつまでも守っていきたい。

◯人間が生きていくうえで海は非常に大切で守っていかなければ。

◯大切な自然の瀬戸内海を残していきたいと思います。

◯普段何気なく見過ごしている風景ですが、改めて丁寧にみていこうと思いました。
小さい頃から海を見る機会が多く、今も大好きですが、未永く汚染されることなく、青い色をたたえていってほしいです。

2. 関連事業の内容

■スペシャルトーク

【開催日時】2026 年4月 25 日（土） 11：00 ～ 12：00
【開催場所】香川県立東山魁夷せとうち美術館　展示室内
【参加者数】51 人
【実施内容・目的】
●展示室内にて実際に展示している絵画作品の前で、平山郁夫氏の絵画作品の特徴、展示作品の取材地、展覧会全体を通した見どころを解説していただいた。
●平山郁夫氏とその作品の魅力、瀬戸内に関わる人々の営みなどについての学びを見込んだ。



開催場所の全景の様子



スペシャルトーク・活動状況の様子

講師として平山郁夫氏の実弟で平山郁夫美術館館長の平山助成氏を招き、展示室内にて実際に展示している絵画作品を前に解説していただいた。解説では、平山郁夫氏の絵画作品の特徴をはじめ、取材地、展覧会全体を通した見どころをご紹介いただいた。
解説から、展示作品の取材地で画家の故郷である生口島をはじめ、しまなみ海道、香川、宮島の、海と人々の営み、暮らし、文化、歴史、自然について、学ぶ場となった。

【来館者の声】
◯平山郁夫美術館の館長さんから直接お話を聴けてそれぞれの絵の背景まで知ることができた。そこから、海が美しいことを再認識し、大切にしていきたい気持ちが強まりました。
◯自然と共存していく。
◯自然の美しさ、海の輝き、潮の流れを大切にしていきたいと思いました。
◯光輝く瀬戸の海を感じました。

■瀬戸内の暮らしを知るトーク

【開催日時】2026年5月9日（土）11：00 ～ 12：00
【開催場所】香川県立東山魁夷せとうち美術館　展示室内
【参加者数】30人
【実施内容・目的】
●香川県内の瀬戸内海国立公園指定地域に建つ瀬戸内海歴史民俗資料館の職員による展示解説。
●実際の瀬戸内海の島々の写真や資料を交えながら、作品に描かれた多様な船や島の様子からわかる、海辺で暮らす人々の生活について、民俗的・歴史的視点から紹介いただくことを通して、美術の視点だけでは得難い海への理解を見込んだ。





講師として、瀬戸内全域の歴史民俗を調査研究範囲とした瀬戸内海歴史民俗資料館　前館長の田井静明氏を招き、展示室内にて実際に展示している平山郁夫の絵画作品を前に解説していただいた。

解説では、主に民俗学の視点から、平山郁夫氏の故郷で展示作品の題材となっている生口島の中心に、古代、中世、近現代における暮らしをはじめ、文化、歴史について、お話しいただいた。展示作品が、橋や港、海辺の街や神社仏閣が海とともに描かれた内容の作品が大半であり、暮らしに関する民俗的あるいは歴史的視点から見た作品鑑賞が可能であるため、通常美術館で行う解説とは違う視点で、海の風景画の作品理解を深めることにあわせ、瀬戸内海についての理解を進める場となった。

【来館者の声】
◯美しい海を保っていたい。
◯生口島についていろいろな歴史が分かりました。
　大切な自然の瀬戸内海を残していきたいと思います。
◯穏やかな瀬戸内海をいつまでも守っていきたい、海はつながっていると感じました。

■学芸員によるミュージアムトーク

【開催日時】2026 年①5月２日（土）②5月 16 日（土）③6月6日（土）
各日 11：00 ～ 11：30
【開催場所】香川県立東山魁夷せとうち美術館　展示室内
【参加者数】①18 人②13 人③18 人
【実施内容・目的】

●香川県立東山魁夷せとうち美術館の学芸員による展示解説。
●実際の平山郁夫の絵画作品を前に、画家と展示作品についての専門知識に基づいた解説と参加者への問いかけをとおして、画家と展示作品の魅力に加え、展示作品の取材地となった瀬戸内の海の重要性についての学びを見込んだ。





香川県立東山魁夷せとうち美術館の担当学芸員が、展示室内にて実際に展示している絵画作品を前に解説した。平山郁夫氏の海の描き方や島の植物の描かれ方といったこの特徴をはじめ、取材地、展覧会全体を通した見どころを解説していくなかで、画家の海の表現方法、瀬戸内の海の重要性などについてを学ぶ場となった。

【来館者の声】

◯とても海を感じることができました。
そこから季節や天候によって海は左右されていると思いました。
◯瀬戸内海の美しさを再確認できました。
◯季節や時間などの変化を感じました。そこから瀬戸内海の穏やかなあたたかみを感じました。
◯説明でより深い知識を得ることができました。同じような場所でも時間や季節で違うものに見えて、丁寧に自然を感じました。
この美しく描かれた海を守りたいと感じました。
◯説明をきいてより興味がわきました。海について、１日の色や動きの変化を感じました。

■夕焼けコンサート

【開催日時】2026 年5月 23 日（土）18：00 ～ 19：00
【開催場所】香川県立東山魁夷せとうち美術館　1 階ラウンジ
【参加者数】68 人
【実施内容・目的】
●当館の収蔵作家である日本画家東山魁夷がクラシック音楽を愛したことから、展覧会と共に音楽に触れる機会を提供する。本展で海を描いた展示作品を鑑賞後、瀬戸内海が明るい昼から夕暮れを経て夜を迎える時間帯に、瀬戸内海を一望するラウンジで刻々と表情を変える瀬戸内海の美しさを堪能しながら、音楽に耳を傾けることを通して、海に対する気づきや学びを見込んだ。

・ショパン　ノクターン　第 20 番　嬰ハ短調　遺作
・メンデルスゾーン　厳格な変奏曲　Op.54





三豊市出身のピアニスト稲沢朋華氏を招き、ピアノコンサート～瀬戸内の調べ～を開催した。風景画の展覧会の鑑賞後にラウンジで実際の瀬戸内海の風景を目にすることができるという、当館の特色を最大限に活かし、そのラウンジをコンサート会場としてクラシック音楽を聴きながら瀬戸内の風景を約 1 時間かけて堪能いただいたことで、海が見せる多彩な表情や美しい風景を感じながら、展覧会で得た海についての様々な学びを反芻し、鑑賞者それぞれに新たな気づきや思いが生まれ、作品鑑賞で得た海への印象を一層強める場となった。なお、プログラムは次のとおりである。

・モーツアルト　ピアノソナタ　第4番　変ホ長調　K.282
・ベートーヴェン　ピアノソナタ　第 14 番　嬰ハ短調「月光」Op.27-2
・ショパン　ノクターン　第 20 番　嬰ハ短調　遺作
・メンデルスゾーン　厳格な変奏曲　Op.54
※アンコールでの曲は次のとおりである。
池田綾子「明日への手紙」、見岳章「川の流れのように」、久石譲「あの夏へ」

【来館者の声】
◯穏やかな瀬戸内海を背景にしてクラシックの名曲を拝聴できる幸せなひとときに感じました。そこから海をとおして心から癒される時間を大切にしたいと思います。
◯美術館から海が良く見え、海がとても近いので、美術館が海の一部になっているように感じました。
◯当たり前のようにある海ですが、たくさんの人に整備されて成り立っているのだと思いました。
◯いつまでも美しく！ゴミがなくなりますように、と思いました。
◯海を見てすがすがしい気持ちになりました。そこからきれいな海を汚さないよう守りたいと思いました。

■子どもの鑑賞会

【開催日時】2026 年①5月５日（火・祝）②5月 24 日（日）
③6月7日（日） 各回 11：00 ～ 11：40
【開催場所】香川県立東山魁夷せとうち美術館　展示室内
【参加者数】①７人②９人③14 人（各日、全年齢層を含んだ数）
【実施内容・目的】
【目標・内容】
●海を描いた風景画をとおして得られた気づきなどを共有することで新しい発見をするなど、鑑賞の楽しさが喚起するとともに、海の重要性を学ぶことが見込まれた。
●対話型鑑賞。対象は小学生向けであるが、他の年齢層も参加できる。展示作品のうち複数作品の前で、参加者が意見や感想を出し合い、共有しながら、作品鑑賞を行った。





香川県立東山魁夷せとうち美術館の学芸員が対話形式で鑑賞の手助けをすることで、美術鑑賞に馴染みのない方から、より深い鑑賞体験をしたい方に、海の風景画について親しむきっかけを提供した。様々な来場者が意見や感想を交換することで、自分とは違う気づきを得られたり、言語化の過程で自分の視点を整理し、展覧会から得られる多くの情報を消化する一助となるほか、美術鑑賞にとどまらず実際の海の風景を楽しむ場となった。

」

【来館者の声】

◯話を共有したりすることが良かったです。
時間によって海の波の高さに違いがあることを学びました。

◯みんなで絵をみて感想を共有できました。そこから瀬戸内海のおだやかで心にしみわたる風景を大切に残したいと感じました。

◯海岸線に光を描くことで人の生活を表現していることが分かりました。そこから、海と人とが共生していることを学びました。

◯朝、夕方、夜の海を描いた作品を見比べられたことで、海の色が黄色、オレンジ、紫と時刻によって変わることを学びました。

◯潮の流れや季節の違いで海にいろいろな顔があることを感じました。

【事業全体のまとめ】

●風光明媚な多島美と豊かな水産資源を持つ瀬戸内は海運の要衝でもあることから、かねてより優れた自然環境や歴史的な重要性等について紹介されてきたが、豊かな感性を育む環境のもと芸術面でも多くの特色をもつため、本サポート事業を活用したことによって、特に美術分野の視点から瀬戸内の海に着目して紹介することができた。

●当館は、東山魁夷が兵庫県神戸市で船問屋を営む家庭に育ち祖父は瀬戸内海の島出身という瀬戸内に深い縁を持つ画家であると日頃から紹介してきたが、東山魁夷と同じ時代に活躍した広島県瀬戸田町（現・尾道市）出身の画家、平山郁夫に焦点を当てることで、多様な瀬戸内ゆかりの画家についての周知を図ることができた。

●これまでシルクロードや仏教主題の作品でよく知られる画家であった平山について、特に瀬戸内の海を主題にした作品を展示し紹介することができ、平山と瀬戸内の海の深い縁について認識を広めることができた。

●広島県のしまなみ海道や宮島のほか香川県内に取材した作品群を取り上げることができたことで、同じ瀬戸内海沿岸の中でもそれぞれに異なる風土を紹介でき、画面からそれぞれに異なる海と風土を感じとる鑑賞体験の場とすることができ、広域にわたる瀬戸内海について学ぶ場にすることができた。

●夕焼けコンサートへの参加や展示鑑賞の前後に、来館者が 1 階ラウンジで瀬戸内海と東山家のルーツである櫃石島を眺望することで、当館ならではの環境のもと海辺の風景をより印象深く心に留めていただけた。

3．主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1．平山郁夫美術館	平山郁夫作品借用先、スペシャルトーク講師依頼先
2．平山郁夫シルクロード美術館	平山郁夫作品借用先
3．朝日生命保険相互会社	平山郁夫作品借用先
4．香川県立ミュージアム	平山郁夫作品借用先
5．瀬戸内海歴史民俗資料館	瀬戸内の暮らしを知るトーク講師依頼先

4．主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1．四国新聞	4月9日付け社告「平山郁夫ーせとうちの風景を描く」
2．四国新聞	4月 16 日付け記事「平山郁夫の原風景たどる」
3．四国新聞	4月 25 日付け記事「潮香る瀬戸の風景」
4．四国新聞	4月 30 日付け広告「平山郁夫ーせとうちの風景を描く」
5．四国新聞	4月 30 日付け記事「アートと音楽　浸る宵」
6．四国新聞	5月7日付け四国新聞掲載「列品解説上」
7．四国新聞	5月 14 日付け四国新聞掲載「列品解説中」
8．四国新聞	5月 21 日付け四国新聞掲載「列品解説下」
9．四国新聞	5月 29 日付け広告「平山郁夫ーせとうちの風景を描く」

以上